

西暦 2021年3月9日

## 2005年1月から2024年1月までに自己免疫性肝炎と診断された患者さんへのお知らせ

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた情報の記録に基づき実施する研究です。このような研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（西暦2014年12月22日制定 西暦2017年2月28日一部改正）」により、対象となる患者さんのお一人おひとりから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開するとともに、参加拒否の機会を保障することとされています。この研究に関するお問い合わせ、また、ご自身の診療情報が利用されることを了解されない場合は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。

1. 研究課題名 自己免疫性肝疾患の予後、治療効果に関する検討
2. 研究期間 西暦2021年3月 ～ 西暦2024年1月
3. 研究機関 産業医科大学病院消化管内科・肝胆膵内科、産業医科
4. 実施責任者 (所属 職名 氏名をご記入ください。) 産業医科大学第3内科学 消化管内科・肝胆膵内科 助教 草永 真志

### 5. 研究の目的と意義

自己免疫性肝炎は、自己免疫機序の関与が想定される原因不明の肝疾患です。副腎皮質ステロイド治療によって多くの方は治療可能ですが、予後不良な病態も報告されています。また最近では、癌治療で使用される薬剤によって自己免疫性肝炎に類似した肝障害を認めることも報告されています。自己免疫性肝炎には多くの病態が存在しそれぞれの病態や治療効果を見極めることは非常に重要となってきます。今回、血液検査、画像検査、基礎疾患、治療方法、性別、年齢、内服薬等で、病態毎の治療後の予後因子や治療効果の予測因子を検討します。これらの因子を明らかにする事により、今後の自己免疫性肝炎治療に役立つ事を目的としています。

### 6. 研究の方法

この研究は、産業医科大学病院にて2005年1月から2024年1月までに自己免疫性肝炎に対する検査及び治療を行った患者さんを対象としています。日常の一般診療で行われている診療記録、採血検査や画像検査を使用します。肝生検を行った方は組織学的検査結果も使用します。その後の予後に関して、経時的に後方視的にカルテ調査を行うことで検討します。

## 7. 個人情報の取り扱い

得られた個人情報を取り扱う際には、個人が特定できないよう匿名化（番号化）します。この研究で得られたデータは、研究終了5年後まで第3内科学で保存された後に、すべて廃棄します。また、患者さんが参加を拒否された場合は、その時点までに得られたデータを廃棄します。「ご自身のカルテ情報は除外してほしい」と望まれる患者さんは下記までご連絡下さい。

## 8. 問い合わせ先

産業医科大学 第3内科学 消化管内科・肝胆膵内科

草永 真志

福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1

TEL 093-603-1611

## 9. その他

この試験への参加による謝礼等は発生しません。